

2025 年 11 月 4 日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

| | | | |
|----|-------|----|------------|
| 氏名 | 太田 雅公 | 所属 | 空間演出デザイン学科 |
| | | 職位 | 教授 |

| | |
|----------------------------|--|
| 研究課題 | ロンドン、ウエストエンドシアター劇場でのセノグラフィ（舞台美術,衣装）と現代美術館における作品と空間演出の関わりの方の研究 |
| 研究先機関 | ロンドン（ピカデリー・シアター、ジリアン・リン劇場、他美術館）パリ（ガリエラ宮、グランパレ、他劇場） |
| 主な滞在地 （国・都市名） | イギリス（ロンドン）フランス（パリ、ナント） |
| 渡航日程 | 2025 年 10 月 17 日 ～ 2025 年 10 月 27 日（11 日間） |
| 研究目的・理由 | 舞台芸術と空間デザインの総合的理解、現代美術と舞台芸術の横断的研究、機械装置と観客体験の関係性の検証。 「舞台美術」「現代美術研究」関連授業において、現地調査を基盤とした最新事例を紹介し、教育に反映させるため。 近年、舞台や展示空間では観客を巻き込む体験型演出が拡大し、芸術・建築・ファッションなど複数領域が融合している。 本調査では、ロンドンからパリ～ナントに至る芸術実践を通して、身体を媒介とした空間体験の構築原理を明らかにし、今後の空間演出デザイン教育に資する資料を得ることを目的とした。 |
| 研究成果発表予定 （展覧会・著書、論文発表等） | 授業内（欧州（ロンドン・パリ・ナント））で観察した現代舞台芸術・空間デザイン・ファッション・アートの動向を通して、身体・装置・光といった要素を軸に、空間と演出の関係性を多角的に考察する。 これらの観察・体験をもとに、現代的な空間表現のあり方を分析したものを資料と実践的知見を授業で共有する。 |

研究内容

2025年10月17～27日にロンドンからパリ、ナントを巡り、現代舞台芸術・空間デザイン・ファッション・アートマーケットの動向を横断的に観察したものである。舞台作品から美術展示、都市スケールの装置までを空間と多角的に分析した。

ロンドンでは、ミュージカル《ムーラン・ルージュ》が装飾過多な照明と舞台装置によって、観客を包み込む没入的空間を構築していた。観客は視覚的祝祭空間の一部として位置づけられ、舞台と客席の境界が曖昧化される構造が特徴的であった。対照的に、《となりのトトロ》では俳優が人形や装置を直接操作し、人間と物体の共演を通して「見立て」による空間生成が行われていた。アナログな身体操作によって空間が立ち上がるこの方法は、身体的想像力を核とする舞台構成として注目される。また、テート・モダンのド・ホ・スー展では、記憶や居住の経験が布製の透過構造として可視化され、身体の移動が空間経験そのものを形成するインスタレーション的体験が提示されていた。

パリでは、アズディン・アライア ギャラリーおよびリック・オウエンス展を通じて、衣服が「身体を包む構造体」として、建築的・儀式的な意味を帯びて提示されていた。ジンガロの新作では、人馬一体の演出により自然・身体・音響が融合し、観客は場そのものの“生起”を身体感覚で共有した。さらに、ナントの「ラ・マシーン」では、巨大機械が都市を歩行することで、都市空間全体が舞台化される拡張的演出が見られた。これらは劇場外に広がる新たな身体空間の形を示唆していた。

アート・バーゼル・パリでは、現在の現代アートの動向が見え、ドゥクフレの新作では、光・映像・身体が統合された詩的構成により、身体を媒介とした空間詩学が実現されていた。

現代の舞台・展示空間には、身体と空間の共進化、観客の身体的没入、都市的スケールへの拡張、という三つの傾向があり、現代演出は「何を見せるか」ではなく「どのように存在するか」へと関心を移し、身体を空間構築の主体とみなしている。

本調査は、舞台美術・空間デザイン教育において、身体を媒介にした空間創造の方法論の再考を提供し、今後は都市文化ネットワークや身体感覚の接続性を軸に、学生への実践的学びの場を展開していく予定です。

大学における
研究成果の還元

1 年次全体講義での基礎的理解の形成 欧州の事例を教材として、空間体験の構築原理を学び、感覚的・概念的理解を促す。

各学年の実技・演習授業での応用 身体・装置・光・音を用いた空間構成の演習に現地観察を反映し、表現と設計を統合的に学ぶ。

ゼミ授業および研究活動への展開 学生が自身の制作・研究を通して「身体と空間の関係」を探究できるよう、実践的な討議・指導を行う。 今後は都市文化ネットワークとの連携を視野に、身体感覚を軸とした空間デザイン教育モデルの構築を目指す。

研究日程（全滞在期間）

| 出発日 (現地時間) | 出発地 (国・都市名) | 到着日 (現地時間) | 到着地 (国・都市名) | 研究内容等 | 滞在 日数 |
|------------------|----------------|----------------|----------------|----------|----------|
| 10/17 14:50 | 日本 成田 | 10/18 06:20 | イギリス、ロンドン | 移動 | 1 |
| 10/18～21 | ロンドン | | | 劇場視察、観劇 | 3 |
| 10/21 17:31 | ロンドン | 21:00 | フランス パリ | 移動 | 移動 |
| 10/21～22 | フランス パリ | | | 美術館、観劇 | 2 |
| 10/23 7:48 | フランス パリ | 10/23 9:54 | フランス ナント | ラ・マシーン見学 | |
| 10/23 20:04 | フランス ナント | 10/23 22:22 | フランス パリ | 移動 | 移動 |
| 10/23-26 8:00 | フランス パリ | | | 美術館、観劇 | 3 |
| 10/26 11:40 | フランス パリ | 10/27 20:20 | 日本 成田 | 移動 | 2 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 備考 | | | | | |

以上

※ 欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。

※ その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。



ロンドン ピカデリー劇場（ムーラン・ルージュ）



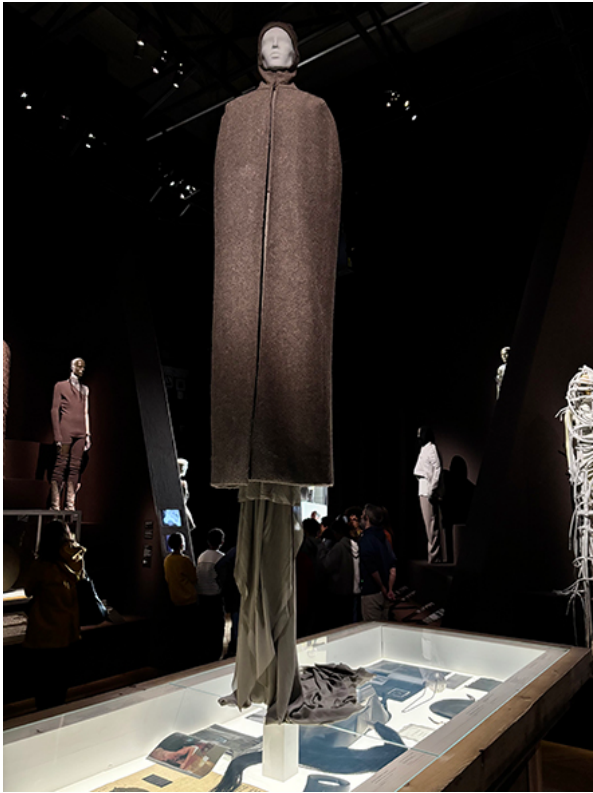
ロンドン ジリアン・リン劇場（トトロ）



テートモダン美術館



ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館



パリ市立ガリエラ宮



アズディン・アライアギャラリー



パリ ZINGARO公演



フランス、ナント（マシン・ド・リル



アート・バーゼル・パリ2025